

横浜市 各々の力を発揮し4連覇目指す

昨年度総合優勝した横浜市チーム。箱根駅伝出場経験のある原田洋輔主将（東京農業大学）ほか大学生を中心に、安定した力の選手たちが優勝に向け集結。全員が各々の力を十分に発揮できるように準備し、不足部分は補い合い、4連覇を目指す。脇田浩介監督は、県立舞岡高校教諭で同校陸上部の顧問。県高校駅伝が現在のかながわ駅伝と同じ丹沢湖周回コースになった年、駅伝メンバーとして走った経験を持つ。起伏やカーブ、観客が多いエリアがあるなどコースの特徴を研究。「余裕をもって勝ったことはなく、毎回中盤以降に逆転し勝っている。今年も入念に準備して臨みたい」。

毎年春になると、横浜出身選手の大会記録をチェックし、1年かけて参加へ声をかけていく。中・高時代にメンバーになってくれた子たちが、今は主力に。コンディション次第で当日控えに回るかもしれない所属選手を参加させてくれる各チームの監督たちに感謝。（脇田監督）



山北町 新戦力も加わりチーム復活へ

昨年は厳しい結果だったが、「今年は初心にかえり、前年の順位、前年タイムを上回っていきたい」と静かに闘志を燃やす。第59回大会以降、町村の部で2位を3回、総合20位以内も3回記録したことがあり、ホームコース・山北の地で、チームの復活を目指す。順位アップの鍵となるのが、中学生2人と、山北町に転居して町のメンバーになった社会人ランナーら、3人の新しいメンバー。ベテラン中心のチーム編成に、新しい血が入りチームを活性化させる。昨年1区を走ったエースの五十島選手と、高校で初出場以来、出走歴10回の齊藤主将らベテラン勢も健在、全体を引き締める。

チーム揃いのウォームウェアも、背中の文字を張り替え、気分一新。松澤監督自身、かながわ駅伝をランナーとして走った経験もあり、チームを丁寧にサポートする。「山北町の代表選手として誇りをもって、丹沢湖のコースを全力で攻めの気持ちで走ります。チームの合言葉は『スマイルラン』」



かながわ
駅伝

注目チーム・ 選手紹介



各チーム紹介は
こちらから

公式X



県HP



愛川町 目指すは町村初の総合優勝

昨年度町村の部優勝の愛川町チームは、これまで町村が成し得なかった総合優勝を狙っている。女子の中でも実力を誇る拓殖大学の新井選手や、箱根駅伝出場経験を持つ創価大学出身の中武選手（弟）・神奈川大学の西坂選手の走りはチームの大きな支えになっている。さらに、新たに地元出身で日本選手権で入賞実績を持つ梶原選手を迎えたことで、チーム全体の意識と結束力が一段と高まっているという。成長著しい中学生と安定感のある大学生、社会人が揃い、大きな可能性のあるチームに仕上がっている。

今年のチームは、かなり戦力が整っており、「ダークホース」になれると思っています。選手たちはそれぞれの環境で日々頑張っています。その成果を結果として町民の皆さんにお見せしたいです。（右／苅田監督）
町の代表として、それに恥じない思い切った走りを選手一同でして、目標である「総合優勝」を愛川町に持ち帰りたいと思います。（左／中武主将（兄））



真鶴町・湯河原町・清川村合同チーム

3自治体合同チーム、10年ぶり結成

10年前と同じく3自治体合同チームを結成。軸となるのは、50代の市民ランナーで主将の細野選手（湯河原町）、30代の原田選手（真鶴町）、エース区間を走る初出場・19歳ランナーの3人。清川村からは中学生女子ランナーがエントリー予定でフレッシュな走りに期待。細野選手は息子さんも出走予定。親子の襷リレーにも注目だ。チームを支えるのは3自治体の橋渡し役である秋元監督をはじめ、ランナーの家族ら。アットホームな雰囲気チームをサポートする。

秋元監督（写真右）は、学生ランナーには「こういう大きな大会に出た経験をプラスに、陸上を長く続けていくことにつながれば」とし「一つでも上の順位を目指し、気持ちを一つにし、それぞれの町村の代表として全力で走りきります」と細野主将（写真左）とともに意気込む。



レジェンドランナー

たかのり

長谷川 隆智さん（大井町）

小田急電鉄の秦野駅副駅長として日々勤しみ、夜勤明けには秦野競技場まで走り、トレーニング後に帰宅する強者。かながわ駅伝には13回出場し、多数回出場で表彰。学生時代に陸上経験はなく、30歳の頃、健康のために走り始めた。最初は2km位から始めて地域のマラソン大会で記録証をもらい、面白くなって続けるとタイムも伸び、今は走ることが生活の一部に。「かながわ駅伝の出場が毎年の1番の目標」と意気込む。

自宅のある大井町は自然豊かで、富士山や足柄平野が一望できる場所まで走るのがお気に入りのランニングコースです。



レジェンドランナー

新井 沙希さん（愛川町）

拓殖大学の4年生。かながわ駅伝を走るのは今回で4回目。女子駅伝の二大駅伝の一つに数えられる「富士山女子駅伝」では、4年連続アンカーを務め、2年時には区間賞を獲得するなど注目の選手。かながわ駅伝の思い出はコロナ禍や雪での中止が続く中、ようやく開催された大学2年時の大会で、久しぶりに地元の先輩たちと一緒に走れたことが本当に嬉しかったと晴れやかな笑顔で振り返る。卒業後は実業団選手として陸上を続けていく。

帰省した際は田代運動公園を走ったりします。川沿いで景色も良く、空気も気持ちいいんです。高校生の頃は毎日走っていたので、今でも地元の方に声をかけていただくことがあります。



JAF

耕そう、大地と地域の未来。

JAグループ神奈川



NISSAN

KANAGAWA
TAXI ASSOCIATION



東京ガスエコモ株式会社

製造の先の創造へ。



PRESS KOGYO



学校法人 呉竹学園

横浜呉竹医療専門学校



Otsuka 大塚製薬



神奈川衛生学園専門学校



ミツハライス

（公社）神奈川鍼灸師会

東海大学

（株）安藤スポーツ

（株）タウンニュース社

（株）オギノパン

富士急モビリティ（株）

（株）アイエンス